

6/1

全国一斉悪疫退散祈願

「Cheer up! 花火プロジェクト」

令和2年6月1日(月)、午後8時から、新型コロナウイルスの収束祈願、最前線で尽力する医療従事者へ感謝の意を表す花火が、全国で打ち上げられました。境町の利根川河川敷でも、医療従事者への感謝を表す青色を中心に、約3分間、75発の花火が打ちあがりました。

打ち上げは、毎年「さかいふるさと祭り 利根川大花火大会」で素晴らしい花火を打ちあげる、明治6年創業、山崎煙火製造所(つくば市)によるものです。

この花火は、「3密」を避けるため、事前の告知はせず、日程や場所が非公開の「サプライズ」企画でした。境町でも、感染予防の観点から、多くの人が集まるのを避け、離れた場所から花火をご覧になれるよう、直前に防災無線で花火打ち上げのお知らせをアナウンスしました。



山崎煙火製造所により打ち上げられました



打ち上げの準備

花火大会の起源と疫病退散祈願

江戸時代、「享保の大飢饉」と、疫病(コレラ)の大流行により多くの人が亡くなりました。享保18年に、8代将軍・徳川吉宗が慰霊と疫病退散を祈願して水神祭を行い、そこで花火を打ち上げたことが、花火大会の起源といわれています。

どうして医療は青色?

医療従事者に感謝を捧げる取り組みは、3月下旬にイギリスから始まりました。イギリスの国民保健サービス「NHS(National Health Service)」のシンボルカラーが青色だったため、医療従事者への感謝を示す運動とともに、青色のイメージが世界に広まりました。

寄付

新型コロナウイルス感染症対策基金「個人寄付第一号」

(株)アライ新井健一代表取締役が特別定額給付金を寄贈

令和2年5月25日(月)、新型コロナウイルス感染症対策の財源に充てるため、境町新型コロナウイルス感染症対策基金を設置しました。

この基金に、境町で個人の第一号として、アライストアーを経営する(株)アライの新井憲夫さんと新井健一さん親子が、コロナ対策に役立ててほしいと、2人分の特別定額給付金20万円を寄付されました。

境町では、3月2日(月)から、国からの要請で町内の小中学校を臨時休校としました。その際も、新井さん親子から、朝から児童クラブで一日を過ごすことになった子どもたちのために、唐揚げを無償提供していただいています。

いただいた寄付は、新型コロナ感染症対策や予防のため、大切にさせていただきます。



寄付に訪れた新井健一さん(写真中央)

20年以上海外でのビジネスで活躍!!

第26回

情熱 境熱

JOUNETSU-SAKAI

中崎敏之

情熱「境」では、境町在住。出身の方、また境町に縁のある方で、芸術、音楽、スポーツ等、様々な分野で活躍されている方を紹介します。第26回は、クラリオン・マレーシア社に勤務する中崎敏之さんにお話を伺いました。

【略歴】

◆中崎敏之(なかざきとしゆき)

昭和29年2月8日境町宮本町生まれ。境一中、古河三高、東京理科大学卒業。同大学研究室を経て、(株)クラリオンに入社し、カーナビ等車関連通信機器開発に従事。39歳の時に同マレーシア社に駐在。製品開発部門の立ち上げ、またアジアや中近東地域でのビジネス開拓を推進。45歳で同マレーシア社日本代表及び同タイ社長を兼務。その間、ロンドンでIODビジネススクールを修了し、企業経営学・多国間プロジェクト等の指揮統括を学ぶ。現在は、同マレーシア社の顧問、また他に現地資本で2社を興し、マレーシアと他国との協働事業にも邁進。妻は、声楽家、日本オペラ振興会会員、ソプラノ歌手。演奏活動を行う傍ら境町をはじめ5つの合唱団の指導にあたる。



海外でのビジネス経験を伝えていきたい

◎境から世界へ

幼少期の頃は、宮本町の香取神社や利根川が遊び場によく遊んでいました。子供会でのおみこしも楽しい思い出です。大学の電子工学研究室を経て、(株)クラリオンに入社。当時はまだメジャーでなかったカーナビなどの開発に携わっていました。

80年代、日本が国際競争力を強める機運の中、英語が必要でした。社内の英語研修の他に、境町自宅への帰途、語学学校にも通っていました。

39歳、境町を後に、海外生活の始まりです。会社は、日本とマレーシアとの合併企業で、現地社員が500人を超えるという環境でした。文化、道徳の違いに戸惑う中、すべてを現地で完結する会社に向けて、現地の社員と協働で、まず販路開拓への邁進が始まりました。

◎海外での就業を通して得たもの

マレーシア社での日本代表に就き、経営スキルの重要性を再認識しました。世界でビジネスを展開していく為に、ロンドンのIOD(英国経営者協会)ビジネス



クラリオン・マレーシア社の様子



ケンブリッジとボストンの仕事仲間との写真。世界各国でビジネスに邁進しています

スクールで学び、世界で活躍する経営者達とディスカッションを続けることで、実践的な経営理念を学びました。一人の力には限りがあります。自分の思いを伝え、最大限の能力を発揮できる環境を造り、結果を纏めるマネジメント力が必要です。それを実現するために、誠実に、透明性を持って、すべてが説明出来る様にと、この3つの柱を常に意識しております。

◎経験からの教訓

最近では、世界で日本の稼ぐ力が低下していることを感じています。アジア各国が日本を学ぶ時代から、日本が世界を学び、良い点を取り入れて、新たな価値を生み出す力が必要な時代です。日本人の文化や道徳観をわきまえつつ、他国の文化を尊重し自己の考えを整然とアピールする力が求められています。

境町の、海外の友好・姉妹都市が増えていることはとても良いことですね。交流から一歩先に進み、経済交流や観光などに広げていくことが相互の発展につながると思います。

◎境町に貢献したい

成田空港をよく利用しますので、ふれあいの里からの直行バスは、とても便利で感謝しています。境町には、若い人が羽ばたける滑走路があれば良い。それは、人々を誘い、新たな価値を持ち帰ってくる有益な導線となるだろう、と思いを巡らせます。ここ数年は、境町に帰り家族で過ごす時間も増えてきました。今後は、私が世界で学んだ経験を境の方々に共有できればと考えています。